

平成28年度

- 第 1 回 -

藤 岡 市 総 合 教 育 会 議 議 事 録

藤 岡 市

平成28年度第1回藤岡市総合教育会議議事録

日 時 平成28年6月28日（火）

午後2時

場 所 教育庁舎3階 第1会議室

協議事項

- (1) 調整・協議 藤岡市の教育の現状と課題について
- (2) その他

出席者

市長	新井利明君	教育委員長	大 理 淳 一 君
教育委員長職務代理者	増田 寛君	教育委員	小 柏 繭 子 君
教育委員	関口澄雄君	教育長	田 中 政 文 君

説明のため出席した者

教育部長	御 供 英 宏 君	教育総務課長	岡 本 通 弘 君
学校教育課長	吉 崎 仁 君	生涯学習課長	鈴 木 茂 信 君
文化財保護課長	軽 部 達 也 君	スポーツ課長	山 口 善 弘 君
学校給食センター所長	塚 本 良 君	図書館長	吉 野 哲 君
企画部長	関 口 薫 君	秘書課長	小 島 治 君
自治交流課長	福 井 保 次 郎 君	子ども課長	中 島 誠 君

事務局職員出席者

教育管理係長	吉 田 隆 司	主 任	大久保 翔 悟
--------	---------	-----	---------

会 議 の 概 要

開会 14時00分

教育部長（御供英宏君） みなさん、こんにちは。只今より平成28年度第1回藤岡市総合教育会議を開催いたします。本日司会を務めさせていただきます、教育部長の御供です。よろしくお願いいたします。藤岡市総合教育会議は、平成27年4月、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、総合教育会議の設置が義務付けされました。総合教育会議では、市長と教育委員が十分な意思疎通を図り、藤岡市の教育の課題やあるべき姿を共有しながら、連携して教育行政の推進を図ろうとするものであります。開催にあたり、主催者であります、藤岡市長よりご挨拶を申し上げます。

市長（新井利明君） それでは、開会にあたりまして、一言御礼を申し上げたいと思います。今年度第1回藤岡市総合教育会議ということで、教育委員さん、また教育長さんにご出席いただいております。改めて御礼を申し上げます。今年度第1回ということですが、昨年度2回、今回が3回目ということですが、国の方針に基づいた総合教育会議、皆さんの色々なご意見をいただきながら、行政全体として意思を共有していきたいということでございます。皆さんの色々な奇譚のないご意見をいただきますよう心から御礼を申し上げます。挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

教育部長（御供英宏君） ありがとうございます。続きまして、大理委員長より挨拶をお願いします。

教育委員長（大理淳一君） みなさん、こんにちは。昨年よりこの総合教育会議が開催され、昨年は会議の運営要綱の制定や市の教育大綱が制定されました。この大綱に沿うかたちで幼児から高齢者に向けた幅広い事業が展開されました。特に学校教育においては、小中一貫教育の推進や世界遺産群のひとつである高山社跡の関係もあり、高山社学の導入が決められております。今年度も多くの方々の貴重なご意見を聞かせていただきまして、今後の藤岡市の進むべき方向を示していただければありがたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

教育部長（御供英宏） ありがとうございます。それでは協議事項に移らせていただきますが、この進行につきましては、新井市長よりお願いいたします。

日程第1「協議・調整 藤岡市の教育の現状と課題について」

市長（新井利明君） 皆さん、決まりのようでございますので、進行させていただきます。よろしくお願いたします。早速ですが、日程第1「協議・調整」に入らせていただきます。本日の会議資料として、事務局より3件用意してもらいましたので、最初にこの3件について資料の説明を事務局からお願いいたします。

学校教育課長（吉崎 仁君） 学校教育課長の吉崎と申します。それでは、資料1「藤岡市いじめ問題調査委員会について」を説明させていただきます。この委員会につきましては、資料の2、3ページ目でございますように、昨年度末に条例を定めて設置した委員会でございます。本年度からこの委員会を立ち上げるということで学校教育課が中心となって動いてまいりました。

まず、資料1の1枚目の中段にあります、組織の設置イメージをご覧ください。平成25年6月、国のいじめ防止対策推進法が施行され、各自治体や学校がいじめ防止等の対策を講じる組織を設置するよう示されました。イメージ図の実線に囲まれた組織は、設置が義務付けられているもので、各学校では、学校の部分、真ん中の部分ですが、学校の部分に示されているいじめ防止等の対策やいじめ問題に係る調査を行う組織として、いじめ問題防止対策委員会等が設置されました。そして、このイメージ図の下の段にあります、調査組織のうち、学校の設置者が設ける調査組織として委員会を条例設置したということでございます。

本委員会は、藤岡市いじめ問題調査委員会条例第2条に示すとおり、重大事態に係る事実関係を明確にするための調査を行い、並びにいじめの早期発見及びいじめへの対処のために必要な助言等を行うことが目的となっています。ここで述べられています、重大事態とは、イメージ図のすぐ下に米印で示されておりますけれども、「児童等の生命、心身または財産に重大な被害が生じる疑いがあると認めること」又は「児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認められるもの」です。こういった重篤ないじめの事案につきまして、重大事態と申しております。このような重大事態が発生した場合には、教育委員会を通じて、速やかに市長へ報告するとともに学校や本調査委員会が行った調査の結果についても報告することと定められています。

この調査委員会につきまして、6月8日に第1回の委員会を開催いたしました。委員会の中では、まず群馬県弁護士会、藤岡多野医師会、群馬県臨床心理士会等から推薦された委員の委嘱を行いました。そして、藤岡市いじめ問題調査委員会条例、藤岡市のいじめ問題にかかる取組等について説明をし、ご理解をいただきました。この委員会の目的といたしまして、調査のほかにいじめ問題に対する取組への指導助言ということがございますので、この資料1ページの1番下に四角で囲んでありますけれども、委員から色々な意見を頂戴いたしまして、本市のいじめ防止に向けた取組に生かしていけるものとなっております。本市のいじめにつきましては、意見等にもございますけれども、「他市に比べると比較的少ないけれども、結果に表れていない事例もあるかもしれないので、より発見に努めていくことが必要である。」「学校は、いじめ問題に未然防止にできるだけ取り組んでいることがよくわかった。」「目に見えないかたちのいじめの例があるので、潜在的ないじめを調べることが必要である。」等の様々なご意見を頂戴いたしまして、今後の取組にいかしていきたいと考えております。

この1回目の会議をもつことによりまして、委員相互の共通理解が図れまして、万が一、重大事態が発生した場合に、この調査委員会を委員長が招集して、速やかに調査が行われる体制がつくれたのかと思っております。市内各学校においてはいじめ防止に係る様々な対応が行われております。これまでに重大事態は発生しておりません。しかしながら、常に危機意識を持ちながら、万が一、重大事態が発生した場合には、速やかに対応していきたいと考えております。以上です。

自治交流課長（福井保次郎君） それでは私から資料2「リジャイナ市との国際交流について」を説明させていただきます。自治交流課長の福井と申します。よろしく願いいたします。これまでの経緯と今後についてということで説明させていただきます。始めにこれまでの経緯ですが、このあと学校教育課の吉崎課長からも説明があるかと思いますが、藤岡市とリジャイナ市との交流は、平成3年から中学生と引率教員を市の事業として派遣したことから始まり、今年度で25周年を迎えることとなります。昨年8月、この海外派遣事業で派遣団がリジャイナ市役所を訪問した際、リジャイナ市長より「人の交流にポイントを置いた関係を築ければいいですね、人口の規模の差は関係ありません」と言われ、正式な姉妹都市交流をしていきたいという意志表示を受け

たという報告を受けております。これを受けまして、リジャイナ市の真意を確かめるために、教育委員会学校教育課を通じて、現地学生交換プログラム実行委員会の大谷氏を通じて、確認をいたしました。それについて、リジャイナ市側としては、「両市間で経済発展になる要素が何かあるか提案をしていただきたい。提案をもとに姉妹都市関係に発展できるかどうか判断をしていきたい」というお話でした。

また、本年3月、第1回市議会定例会予算特別委員会のなかで、英語圏との交流の進捗状況はどうなっているのかという質問をいただきました。この件については、市長より現在の状況について説明を行い、なるべく早い段階で市としての体制を含めて検討をしていくという答弁をしております。

そして、本年5月20日、リジャイナ大学副学長のマローイデーブ氏が藤岡市を表敬訪問されております。副学長は、リジャイナの民間レベルで藤岡市との姉妹都市提携について話し合いをしており、「藤岡市が姉妹都市提携に興味をもっているようなら、リジャイナ市長にその旨を伝えたい、そして藤岡市が姉妹都市提携できるようにしていきたい」とおっしゃられていました。対応しました、大島副市長も「藤岡市には国際交流協会というものがあり、英語圏との交流を望んでいる、お互いがアクションを起こして姉妹都市提携に向けて進んでいきたい」と姉妹都市に向けて協力を依頼いたしました。

最後になりますが、今後についてです。リジャイナ市長より姉妹都市交流をしていきたいという意志表示をいただきましたので、両市がアクションを起こして姉妹都市提携に向けて進んでいきたいと考えております。そのひとつとして、行政サイドとしてリジャイナ市を訪問し、リジャイナ市国際交流担当者や藤岡学生プログラム実行委員等と中学生海外派遣事業以外の交流についても、どういう事業が可能なのか協議をしていきたいと考えております。現在、リジャイナ市側には先日表敬訪問されました、リジャイナ大学副市長を通じて、この話をさせていただいております。今のところ、まだ回答はいただいております。

学校教育課長（吉崎 仁君） それでは、資料3について説明させていただきます。平成28年度藤岡市中学生国際交流事業についてでございます。今、福井課長からもお話がありましたけれども、本事業は25年目になり、藤岡市から派遣した生徒は300名を超えます。リジャイナからこちらに来た生徒は、本年度で150名を超える予定です。リジャイナ市につきましては、教育委員

会が2つございまして、公立学校教育委員会とカトリック教育委員会、2つの教育委員会が募集を呼びかけて、この事業を行っております。3番の経費負担につきましては、当初、カナダ側は、リジャイナ市側からの支援が無かったわけですが、この活動が認められまして、2つの教育委員会からも経費が支出されている状況になっています。4番に挙げましたのは、今後の日程でございます。8月2日に、カナダより25名の生徒がこちらに参ります。その後、日本文化の体験、市長表敬訪問、中学校交流会、富士重工の見学、そして浅草観光等を行いまして、8月11日に国へ帰るという計画で進んでいます。以上でございます。

市長（新井利明君） 事務局から説明がありましたが、いじめ問題防止策やリジャイナ市との国際交流につきまして、昨年度も話合いがもたれています。今回は、より進んだ内容の説明があったわけでございます。それについてみなさんからの意見をお願いいたします。どのような意見でも結構ですので、お願いいたします。

いじめ問題の兆候等は今のところ、見受けられていないですか。

教育長（田中政文君） 今のところ深刻なものは、見受けられていませんが、細かいものは、ありまして、そういったものについては、相談とかあるのですが、割と早い段階で対応しているという状況です。

市長（新井利明君） 家族の方がリジャイナ市に行った方はいますか。

学校教育課長（吉崎 仁君） はい。

市長（新井利明君） いくつくらいの方ですか。

学校教育課長（吉崎 仁君） 22歳です。

市長（新井利明君） 当時、何か行ってきた感想とかありますか。

学校教育課長（吉崎 仁君） 帰ってくるなり、また行きたいと言っておりまして、大変良い経験をさせていただきました。

市長（新井利明君） 企画部長、そう長くこの結論も置いておけないですね。

企画部長（関口 薫君） 先ほど、自治交流課長からも説明がありましたが、細かくお話をしますと、リジャイナとかの役所に行ったことが無いみたいです。あちらの真意を聞いて、それから進めていきたいと考えています。姉妹都市とあるのですが、なかなか姉妹都市というのは、法律的に何をもって姉妹都市という定義が基本的には無いんですね。あるとすれば、両方の都市が協定を交わした書類、それと予算化されていること、予算化されているということは、

議会の承認を得ているということが条件になっています。あと1つは、1つの分野に偏らないということが、今姉妹都市と言われている定義となっています。名前についても姉妹都市になるかはわかりません。交流都市、中国の場合は、上下関係があると嫌がりますので、交流都市という名前を使わせていただいています。それとヨーロッパ等では、兄弟都市という言葉を使うこともありますが、一般的には姉妹都市を使うことが多いと思います。以前、チャレンジウィークの子どもたちに「なんで、姉妹なのですか。」と尋ねられたことがあるのですが、簡単に言ってしまいますと、もともと都市という日本語には、そういった概念が無いので、わからないのですが、ギリシャ語みたいなもので言いますと、敬称に女性名詞、男性名詞というのがあり、都市というのが女性名詞にあたるものなので、姉妹という単語を使うのがそのまま流れてきているということになっています。

少し話がそれてしまいましたが、藤岡市としては、話があるのであれば、カナダの市役所に1度行って、あちらの様子を聞いたり、どういう交流ができるのかを聞きながら、気運を高めていく、そして場合によっては、協力して姉妹都市というのが一番良いかと思います。

市長（新井利明君） 報告がありましたが、ご意見がありましたらお願いします。
教育委員長（大理淳一君） リジャイナ市というのは、どれくらいの規模の都市なのでしょう。

自治交流課長（福井保次郎君） 人口は約12万人です。

市長（新井利明君） カナダの中でも意外と地方都市であります。

リジャイナに行くにはどれくらいかかりますか。

自治交流課長（福井保次郎君） 13時間から15時間くらいかかります。

教育長（田中政文君） 飛行機で乗換えするところまで12時間で、バンクーバーからまた、2時間くらいかかります。ここから出発して、丸々24時間くらいかかります。

企画部長（関口 薫君） 国際交流協会の方からよく言われるのですが、リジャイナは遠くてなかなか行けない、それと冬場なかなか行けない、マイナス20度になってしまうので行ける時期が限られてしまいます。あと、多民族的国家でして、ここにもあるとおり教育委員会が2つあります。カトリック系と先住民です。そのへんの行政のバランスというのが我々は把握していません。

委員（小柏繭子君） 期限をいつまでということを決めるのではなく、何年かかる

かわからないけれどもそういった方向に行きたいということですね。

企画部長（関口 薫君） ただ、中学生の子が25年、四半世紀経っています。

教育長（田中政文君） 去年もお話をしましたが、行ったり来たりというのはわりと無くて、行くだけというところが多いんですね。あちらから来て交流を2年がかりでやるというのは珍しいんですね。そういう点も親密さが増し、良いのではないかと思います。

市長（新井利明君） この問題につきましては、企画部長からも話がありましたように、1回招喚状をもらえるよう投げかけてありますので、その対応を見たいと思います。少し意外だったのが、リジャイナ側の市長からもこのようなコメントがあったんですね。副学長にもこちらからの意見もお伝えしたわけですが、様子を見ながら、無しにするのではなくて、できるだけそういう方向も捉えながら、今まで中学生の交流も長く続いてきたわけですから、これをしっかりと行政としてもバックアップしていこうと思いますので、みなさんにお図りする場面も出てくると思いますので、もう少し行政側のほうで対応を考えていきたいと思います。

それでは、日程第1「協議・調整」を終了させていただきます。よろしいでしょうか。

出席者全員 意見なし

日程第2「その他」

市長（新井利明君） 次に日程第2「その他」ということで、今までにご意見をいただいた以外の事案について、ご意見等があればお願いしたいと思います。何でも結構です。

教育委員長（大理淳一君） 1つお聞きしたいのですが、群馬における国体誘致の話が来ております。県のスポーツ協会と話合いをもってもいいのではないかという結論を出したのですけれども、近々に知事や県議会に対して請願することです。これが採択されますと、各市町村に動きが出てくると思います。まだ藤岡市においてはこういった話はありませんか。

市長（新井利明君） まだ来ていません。

教育委員長（大理淳一君） みなさんもお承知かと思いますが、5月2日の日には、サッカー場を造って招致したわけですが、あの頃は非常に金を使って、大盤振る舞いに国体を開催したのですけれども、昨今はお金を使わないで、

節約型の国体となっています。そういうことを考えると、国体を誘致するというのは、全国や関東クラスの大会では数多く人も来ますし、市内で買い物してもらったり、特に地元ではそのおかげで旅行に行けたという話も聞いております。また、芝のグラウンドを市のほうで整備してもらい、今でもそれを有効活用できているわけです。

市長（新井利明君） 今、決まっているのは何年まででしょうか。3年くらい先でしょうか。

教育委員長（大理淳一君） まだ先だと思います。

人工芝のグラウンドが有れば、利用が増えると思いますが、なかなか有りません。昔は競技の数が少なかったのですが、あの頃と違ってきています。よっぽど大きいところでないと、1ヶ所で全部抱え込んで開催するというのは厳しいかと思いますが、何か手を打たないと始まらないと思います。

市長（新井利明君） オリンピックでは、宿舎の問題が出てきてしまうので、ほとんどが個室であったり、あとは選手村があります。今の設備では対応しきれないのかなと思います。

企画部長（関口 薫君） 県内で誘致しているのは前橋市と高崎市の2箇所ですかね。

市長（新井利明君） 全国市長会のなかでその話が出されているのですが、なかなか話が進んでいない状況です。

市長（新井利明君） 他にはありますか。

出席者全員 意見なし

市長（新井利明君） 無いようですが、事務局より2点報告がありますので、お願いします。

教育総務課長（岡本通弘君） 報告させていただきます。始めに、先日終了いたしました6月議会において、議員より小学生のランドセルに関する質問がありました。内容は、現在一般的に使われているランドセルは年々高価になっているが、関西地方や近隣の神川町で採用されているランドセル型リックサックを藤岡市においても採用できないのかという質問でした。このランドセル型リックサックは同様のものを当市でも中学生が使用しており、小学生が使用している革製や合皮製のランドセルに比べ、軽量で安価であり、遠足等でもリックサック代わりに使える等機能性に富んでおりますが、小学生の通学用カバンとしての認知度は低いと思われます。小学生のランドセルについては、

市や学校で特に指定をしている訳ではございませんので、高学年になって破損等により買換えが必要になった場合に、ランドセル型リックサックを選んでもらうことは可能です。今後は、保護者等がランドセルを購入する時期を考慮し、学校側に対し校長会等を通し、情報提供をしていきたいと考えています。

次に、6月2日、藤岡市と藤岡市教育委員会は、市内にある群馬医療福祉大学と連携と協力に関する協定を結びました。これは、各々が所有する様々な人的・知的・物的資源を活用し、文化、教育、まちづくりなどの分野で協力して地域発展と人材育成を図ることを目的としています。最後のページに協定書の写しがありますので、ご覧ください。平成22年度に同大学が市内に開学してから藤岡祭り、藤岡フェスタ、蚕マラソン等様々なイベントで学生がボランティアとして参加しています。また、市と大学による藤岡地域大学連携会議が主催する「まちなかキャンパス」として様々な講演会を開催する等、今でも連携を図ってきましたが、協定を締結したことにより、より一層の連携・協力ができる体制が整ったこととなります。以上、報告とさせていただきます。

市長（新井利明君） ただ今、2点について報告がありました。報告についてご質問がありましたらお願いします。

市長（新井利明君） 例えばランドセルについては、今後どのようにしていく予定ですか。

学校教育課長（吉崎 仁君） 答弁にもございましたとおり、7月1日に校長会議がありますので、こういったことが話題になっていると示したいと思います。

市長（新井利明君） 今の説明にもありましたように、校長会等でも紹介してもらうとのことですか。

教育委員長職務代理者（増田 寛君） このランドセル型リックサックについてですが、6年間使えるような丈夫なものなのでしょうか。

教育総務課長（岡本通弘君） 使い方にもよると思います。

市長（新井利明君） 普通に使えば、多分こちらのほうがもつと思います。

教育総務課長（岡本通弘君） なかなか実物を見ていないので、実感がわかないと思います。

市長（新井利明君） 原則的に、ランドセルでないといけないという決まりは無いので、これはある程度親御さんが選択していくのではないかと思います。

委員（小柏繭子君） 5、6年生には体が大きくなっていくので、ちょうど良いのではないかと思います。ランドセルは似合わないが、こちらのほうが似合うと思います。

教育委員長職務代理者（増田 寛君） 1人だけ使っていると、目立つと思いますので、学校で決めてもらえるとありがたいです。

委員（小柏繭子君） 紹介して認知度が上がれば、少しずつ増えていくのではないのでしょうか。

教育委員長職務代理者（増田 寛君） 校長会議で相談していただければと思います。

市長（新井利明君） 他によろしいでしょうか。

出席者全員 意見なし

市長（新井利明君） 本日貴重な意見をいただきました。大変ありがとうございました。今後、教育委員会事務局と市長部局のなかでも色々と検討させてもらいながら進めていきたいと思えます。それでは、以上をもちまして、第1回藤岡市総合教育会議につきましては、終わらせていただきます。ありがとうございました。

教育部長（御供英宏君） ありがとうございました。それではこれをもちまして、平成28年度第1回藤岡市総合教育会議を終了いたします。次回、年度内の総合教育会議は、招集すべき議題が発生した場合に随時開催したいと思えますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

（14時35分）